

人工授精当日の排卵有無が妊娠率に及ぼす影響

医療法人三慧会 IVF なんばクリニック
若林由理、中野達也、井上朋子、佐藤学、赤松芳恵、
橋本周、姫野隆雄、大西洋子、伊藤啓二郎、
中岡義晴、森本義晴

【目的】 人工授精 (IUI) の実施に最適な時期を調べるために、IUI 当日の
主席卵胞の有無が妊娠率に影響を与えるか検討した。

【対象と方法】 2011 年 1 月から 6 月までの IUI 実施者 270 名で検討した。基本的に IUI
周期には、クロミフェンや FSH、HMG 等の排卵誘発剤を使用せず、ほと
んどの症例は単一卵胞で実施した。超音波で IUI 施行前日に HCG (5,000
単位) を投与した。IUI 施行当日に主席卵胞の有無を確認し、主席卵胞
がある場合は HCG を追加投与した。妊娠判定は尿検査で行った。
IUI 施行当日の主席卵胞が排卵前、排卵後の 2 群に分け、それぞれの妊
娠率と精液所見を比較した。また、IUI 施行前日の主席卵胞径と妊娠率
を比較した。

【結果】 IUI 当日に主席卵胞が排卵前の場合 (75.9%) が有意に多かった ($P < 0.01$)。
しかし、IUI 当日の排卵の有無による妊娠率は、排卵前は 10.7% (22/205)、
排卵後では 10.8% (7/65) と差はなかった。また精液所見、主席卵胞径別の妊娠
率の差は認められなかったが、18mm 以上で妊娠率が上昇する傾向がみられた。

【結論】 IUI 当日の主席卵胞が排卵有無にかかわらず、妊娠率に有意な差
は認められなかった。主席卵胞径が 18mm 以上での IUI 施行が望ましい
と思われる。